

(様式第 10)

高大医医 第 90 号  
平成 26 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人高知大学  
医学部附属病院長 横山 彰

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏 名	国立大学法人高知大学長

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

高知大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185番地1	電話( 088 ) 866 - 5811
--------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
① 循環器内科 ② 神経内科	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
① 消化器外科	② 心臓血管外科	③ 形成外科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科	⑥ 泌尿器科	7 産婦人科
⑧ 産科	⑨ 婦人科	⑩ 眼科	⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	
14 放射線治療科	⑮ 麻酔科	16 救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)					
歯科と組み合わせた診療科名						
① 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制 本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制の元に歯科診療を行っている。 現在常勤歯科医師5名、非常勤歯科医師11名が従事しており、平成25年度は1日あたり外来患者87.1人、入院患者10.7人の歯科診療を行っている。						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

① 病理診断科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
35 床	0 床	0 床	0 床	570 床	605 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	165人	136人	277.8人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	11人	14.1人	理学療法士	10人	臨床検査技師	48人
薬 剤 師	31人	0人	31人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助 産 師	8人	4人	11.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	476人	73人	545人	臨床工学技師	16人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	1人	2人	3人	栄 養 士	1人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	0人	4人	4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	154人
管理栄養士	8人	1人	9人	診療放射線技師	29人	その他の職員	49人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼 科 専 門 医	9人
外 科 専 門 医	20人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	12人	整形外科専門医	9人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	7人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	2人
		合 計	148人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	464.3人	10.7人	475.0人
1日当たり平均外来患者数	955.2人	87.1人	1042.3人
1日当たり平均調剤数	731 剤		
必要医師数			106 人
必要歯科医師数			6 人
必要薬剤師数			16 人
必要(准)看護師数			273 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数			
集中治療室	145.54 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 105.85 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名		薬務室・薬品情報室			
化学検査室	584 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウイルス関連検査		
細菌検査室	142 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器		
病理検査室	261 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ドラフトチャンバー		
病理解剖室	66 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	陰圧室、解剖台		
研究室	4999 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	流し台、実験台		
講義室	613 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	3室	収容定員	558人
図書室	897 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	7室	蔵書数	13万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日	
紹介率	69.9 %	逆紹介率	53.0 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			10,383 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8,610 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			970 人
D: 初診の患者の数			16,227 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であつて、HER2が陰性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当無し		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	59人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	16人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	22人
・全身性エリテマトーデス	143人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	37人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	22人
・サルコイドーシス	90人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	15人	・特発性間質性肺炎	12人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	167人	・網膜色素変性症	18人
・特発性血小板減少性紫斑病	48人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	29人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	55人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	6人	・亜急性硬化性全脳炎	3人
・ピュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	15人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	33人	・ライソゾーム病	9人
・クローン病	32人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	14人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	56人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	12人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	78人	・肥大型心筋症	11人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	15人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	35人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	8人	・黄色靭帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	39人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・新生児特定集中治療室退院調整加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携受入加算
・歯科診療特別対応連携加算	・総合評価加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・特定集中治療室管理料3
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算2	・入院時食事療養/生活療養(I)
・急性期看護補助体制加算	・
・看護職員夜間配置加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・検体検査管理加算(IV)
・植込型除細動器移行期加算	・植込型心電図検査
・高度難聴指導管理料	・時間内歩行試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料2	・人工臓腑
・がん患者指導管理料3	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・外来リハビリテーション診療料	・神経学的検査
・外来放射線照射診療料	・補聴器適合検査
・ニコチン依存症管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・開放型病院共同指導料	・内服・点滴誘発試験
・地域連携診療計画管理料	・センチネルリンパ節生検(併用)
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・がん治療連携管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・認知症専門診断管理料	・画像診断管理加算1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・大腸CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(I)	・無菌製剤処理料

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・がん患者リハビリテーション料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・集団コミュニケーション療法料	・経皮的冠動脈形成術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・精神科作業療法	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医療保護入院等診療料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・一酸化窒素吸入療法	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術(レーザーシースを用いるもの)
・CAD/CAM冠	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・歯科技工加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・補助人工心臓
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・経皮的大動脈遮断術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ダメージコントロール手術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・体外衝撃波胆石破碎術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・腹腔鏡下肝切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・羊膜移植術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・手術時歯根面レーザー応用加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・抗悪性腫瘍剤感受性検査(CD-DST法)	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月 8 回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 16 例 / 部検率 8.56%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
異常Kupffer細胞におけるNASH発症に関連する因子の同定	小野 正文	内科 (消化器)	210,000	独立行政法人 日本学術振興会
AFP産生を伴う肝細胞増殖の制御機構解明を通じたNASHにおける肝発癌抑制	西原 利治	消化器内科学	420,000	独立行政法人 日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎の肝病態におけるインクレチン作用機序の解明	岡本 宣人	光学医療診療部	570,000	独立行政法人 日本学術振興会
低分子量Gタンパク質の膜浸潤・転移への関与	岩崎 信二	内科 (消化器)	420,000	独立行政法人 日本学術振興会
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	西原 利治	消化器内科学	3,000,000	東京大学
オートファジー調節による尿管脱分化と尿中再生マーカーを使う急性腎障害の再生医学	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	1,080,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎尿管細胞の脱分化・再生の過程におけるDNA修復、細胞周期、細胞死制御の解明	平野 世紀	内科 (内分泌代謝・腎臓)	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
膵B細胞TBP-2の耐糖能障害における役割の解明	藤本 新平	内科 (内分泌代謝・腎臓)	240,000	独立行政法人 日本学術振興会
ミトコンドリア機能およびオートファジー調節による急性腎障害の新規治療法開発	寺田 典生	内科 (内分泌代謝・腎臓)	510,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎疾患におけるオートファジーとサーチュインの病態への関与と新規治療薬の開発	島村 芳子	内科 (内分泌代謝・腎臓)	210,000	独立行政法人 日本学術振興会
糖質コルチコイド過剰により惹起される過食・肥満形成メカニズムの解明	中山 修一	内科 (内分泌代謝・腎臓)	150,000	独立行政法人 日本学術振興会
急性腎障害の病態におけるミトコンドリア機能とオートファジーの意義の解明	濱田 佳寿	内科 (内分泌代謝・腎臓)	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
甲状腺癌細胞における細胞内エネルギー/糖代謝調節機構の解明と抗がん治療戦略の構築	田口 崇文	内科 (内分泌代謝・腎臓)	270,000	独立行政法人 日本学術振興会
慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発に関する研究	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	1,000,000	新潟大学
ミトコンドリア障害・保護をターゲットにした腎不全の新規治療法の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科	1,500,000	公益財団法人日本透析 医学会
セレクトリガンドを有するKL-6/MUC1の発現機序の解明と臨床応用	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	1,230,000	独立行政法人 日本学術振興会
肥満による喘息悪化機序の解明—CD8陽性T細胞との関係	大西 広志	内科 (血液・呼吸器)	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
トロンボモジュリンの血管内皮保護薬としての臨床応用に向けた分子基盤の解明	池添 隆之	内科 (血液・呼吸器)	270,000	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトMUC1発現マウスを用いた肺障害モデルにおけるバイオマーカーの動態解析	窪田 哲也	血液・呼吸器内科学	570,000	独立行政法人 日本学術振興会
COPDにおける全身性炎症発現機序の解明	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	360,000	独立行政法人 日本学術振興会
悪性腫瘍における新規癌ウイルス感染実態の解析と発癌との関連について	谷口 亜裕子	血液・呼吸器内科学	450,000	独立行政法人 日本学術振興会
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	1,200,000	国立感染症研究所
呼吸不全に関する調査研究	横山 彰仁	血液・呼吸器内科学	540,000	京都大学
トロンボモジュリン由来新規ペプチドによる骨髄移植後合併症の新規予防注射法の開発	池添 隆之	血液・呼吸器内科	325,000	独立行政法人科学技術 振興機構
トロンボモジュリンの上皮増殖因子様構造を用いた血管内皮細胞保護薬の開発	池添 隆之	血液・呼吸器内科	870,000	独立行政法人科学技術 振興機構
白血病細胞におけるテトラスパニンCD82の分子基盤の解明	西岡 千恵	血液・呼吸器内科学	2,000,000	公益財団法人武田振興 財団
トロンボモジュリンの上皮増殖因子様構造を用いた血管内皮細胞保護薬の開発	池添 隆之	血液・呼吸器内科学	1,000,000	公益財団法人先端医薬 研究振興財団
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	老年病・循環器・神経内科学	240,000	独立行政法人 日本学術振興会
深部脳刺激による起立性低血圧の治療	弘田 隆省	内科 (老年病・循環器・神経)	300,000	独立行政法人 日本学術振興会
慢性活動性EBウイルス感染症において特異的に発現変化する細胞遺伝子の網羅的解析	藤枝 幹也	小児思春期医学	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
ファージ溶菌酵素を利用するセラチア菌感染症に対する新制御法の開発	松下 憲司	周産母子センター (小児科)	150,000	独立行政法人 日本学術振興会
GLP-1による中枢性交感神経系賦活における孤東核/ノルアドレナリン神経系の役割	山本 雅樹	小児科	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
筋ジストロフィーの治療拠点整備、包括的診療ガイドラインの研究	古谷 博和	神経精神科学	500,000	独立行政法人国立精神・ 神経医療研究センター
エピソードネットワークと組織化学的手法によるPTSDの病態解明と予防法の開発	森信 繁	神経科精神科	810,000	独立行政法人 日本学術振興会
レビー小体型認知症の神経基盤変化に着目した認知症患者運動能力評価法の構築	上村 直人	神経科精神科	360,000	独立行政法人 日本学術振興会
思春期のうつ病の早期発見と心理教育	下寺 信次	神経科精神科	480,000	独立行政法人 日本学術振興会
遺伝子プロモーターのメチル化を用いた自殺予測のためのバイオマーカーの開発	森信 繁	神経科精神科	270,000	独立行政法人 日本学術振興会
認知症のための縦断型連携パスを用いた医療と介護の連携に関する研究	上村 直人	神経精神科学	1,250,000	熊本大学
精神疾患患者に対する早期介入とその普及啓発に関する研究	下寺 信次	神経精神科学	800,000	東邦大学
DNAメチル化修飾に着目したうつ病のマーカー作成—双極、単極、治療抵抗性うつ病の識別を目指して—	森信 繁	神経精神科学	1,300,000	徳島大学
紫外線発癌におけるT細胞の関与について	喜多川 千恵	皮膚科	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬の発症に関与する皮膚バリア障害	中島 喜美子	皮膚科	450,000	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬の重症度に相関する新たな分子LRGの役割：乾癬及びマウスモデルでの解析	中島 英貴	皮膚科	480,000	独立行政法人 日本学術振興会
再プログラム因子導入による間葉上皮移行の誘導と癌浸潤の制御	高石 樹朗	皮膚科	540,000	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
乾癬に関わるランゲルハンス細胞の役割：モデルマウスを用いた解析	山本 真有子	皮膚科	450,000	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬患者と健康人末梢血におけるTh17誘導の差異について	志賀 建夫	皮膚科	450,000	独立行政法人 日本学術振興会
尋常性乾癬から関節症性乾癬への移行予測因子の解析	高橋 綾	皮膚科	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
マウスモデルをプラットフォームとした乾癬の分子標的薬スクリーニングの確立	寺石 美香	皮膚科	450,000	独立行政法人 日本学術振興会
突発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	佐野 栄紀	皮膚科学	1,000,000	東京医科歯科大学
MRIを用いた乳癌術前化学療法早期治療効果予測	久保田 敬	放射線科	180,000	独立行政法人 日本学術振興会
腫瘍内で過酸化水素を徐放する新規放射線増感剤の開発に関する実験的研究	小川 恭弘	放射線科	510,000	独立行政法人 日本学術振興会
次世代型人工膵臓を用いた糖尿病患者に対する新しい周術期血糖管理法の確立	花崎 和弘	外科学(外科1)	300,000	独立行政法人 日本学術振興会
腹部術後早期の起立性低血圧の予測とその予防デバイスの開発	北川 博之	外科(一)	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	杉本 健樹	外科学(外科1)	100,000	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
3Dエコーガイドによる心拍動下心臓内手術の基盤技術の確立	渡橋 和政	外科(二)	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
肺癌に対するPorphysome増感併用による気管支鏡下光熱治療の開発	穴山 貴嗣	外科学(外科2)	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
被包型脂肪移植モデルを用いた効果的な遊離脂肪移植法の開発	吉田 行貴	外科(二)	270,000	独立行政法人 日本学術振興会
新しい循環管理アルゴリズムの開発	山下 幸一	麻酔科学	60,000	独立行政法人 日本学術振興会
BDNFエクソンをターゲットとする痛みの評価と遺伝子療法	横山 正尚	麻酔科学・集中治療医学	300,000	独立行政法人 日本学術振興会
GLP-1の薬理活性を利用した新しい周術期血糖管理法の検討	河野 崇	麻酔科	480,000	独立行政法人 日本学術振興会
麻酔の認知機能に及ぼす基礎ならびに臨床研究	北岡 智子	麻酔科	240,000	独立行政法人 日本学術振興会
術中アミノ酸投与の大手術における術後筋萎縮予防効果に関する検討	矢田部 智昭	麻酔科	180,000	独立行政法人 日本学術振興会
慢性的痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為に医療システム構築に関する研究	横山 正尚	麻酔科学	1,500,000	愛知医科大学
ヒト臍帯血幹細胞の機能解析と脳性麻痺治療への臨床応用	前田 長正	産科婦人科学	330,000	独立行政法人 日本学術振興会
酸感受性イオンチャンネルをターゲットにした関節痛の新規治療法の開発	池内 昌彦	整形外科	150,000	独立行政法人 日本学術振興会
下肢末梢神経の低電流反復刺激法による腰部脊髄管狭窄症の新しい保存療法の開発	谷 俊一	整形外科	420,000	独立行政法人 日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	谷 俊一	整形外科	500,000	慶應義塾大学
眼炎症疾患発症におけるmiRNAの関与	西内 貴史	眼科	150,000	独立行政法人 日本学術振興会
自己免疫性眼炎症疾患における制御性T細胞の役割の解明	福島 敦樹	眼科	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
フォン・ヒッペル・リンドウ病の診療指針に基づく診断治療体制確立の研究	福島 敦樹	眼科	150,000	国立保健医療科学院
嚥下障害の病態評価に基づいた集学的嚥下障害治療法の確立	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	210,000	独立行政法人 日本学術振興会
メチシリン耐性ブドウ球菌の遺伝子解析による慢性中耳炎遷延化の病態解明と治療戦略	小森 正博	耳鼻咽喉科	360,000	独立行政法人 日本学術振興会
水代謝機構を標的とした新たなメニエール病のモデルと治療法の開発	小林 泰輔	耳鼻咽喉科学	180,000	独立行政法人 日本学術振興会
痙攣性発声障害に関する調査研究	兵頭 政光	耳鼻咽喉科	2,300,000	社団法人日本医師会
痙攣性発声障害に対するA型ボツリヌス毒素(ボトックス)の甲状腺破裂筋/後輪状破裂筋内局所注入療法の有効性と安全性に関する研究	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	4,887,000	社団法人日本医師会
痙攣性発声障害に対するA型ボツリヌス毒素(ボトックス)の甲状腺破裂筋/後輪状破裂筋内局所注入療法の有効性と安全性に関する研究	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	18,250,000	社団法人日本医師会
超高速カメラによる声帯振動の2次元動画解析と声帯振動様式の定量的評価	長尾 明日香	耳鼻咽喉科学	500,000	公益財団法人内視鏡医学研究財団
頭部外傷後のうつ病発症に関わるストレス感受性分子の同定とその機序の解明	東 洋一郎	脳神経外科学	420,000	独立行政法人 日本学術振興会
悪性脳腫瘍におけるゲノムグローバルヒストン修飾制御因子の探索	八幡 俊男	脳神経外科	450,000	独立行政法人 日本学術振興会
悪性グリオーマに対するスピリリナの免疫賦活作用を用いた新たな免疫療法開発	川西 裕	脳神経外科	390,000	独立行政法人 日本学術振興会
脱髄性疾患治療への臨床応用を目指したオリゴデンドロサイト分化機構の解析	政平 訓貴	脳神経外科	660,000	独立行政法人 日本学術振興会
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	上羽 哲也	脳神経外科学	500,000	久留米大学
腎癌VHL遺伝子異常解析によるHIF蛋白の発現予測と分子標的薬の効果予測法の開発	執印 太郎	泌尿器科学	270,000	独立行政法人 日本学術振興会
新規発癌関連遺伝子の探索を目指した光力学診断偽陽性尿路上皮の網羅的遺伝子解析	井上 啓史	泌尿器科学	90,000	独立行政法人 日本学術振興会
乳頭状腎癌関連因子pCAMによる新たな分子病理学的分類と分化誘導療法の確立	辛島 尚	泌尿器科学	360,000	独立行政法人 日本学術振興会
腎細胞癌におけるTKI耐性獲得機序の解明	島本 力	泌尿器科	570,000	独立行政法人 日本学術振興会
フォン・ヒッペル・リンドウ病の診療指針に基づく診断治療体制確立の研究	執印 太郎	泌尿器科学	750,000	国立保健医療科学院
患者および患者支援団体等による研究支援体制の構築に関する研究	執印 太郎	泌尿器科学	300,000	特定非営利活動法人ALS/MNDサポートセンターさくら会
5-アミノレブリン酸(5-ALA)による蛍光膀胱鏡を用いた膀胱癌の光力学的診断に関する多施設共同試験	執印 太郎	泌尿器科学	8,369,000	社団法人日本医師会
ERISAおよび尿検査試験紙による尿路癌の新たな検査法の開発	執印 太郎	泌尿器科学	130,000	独立行政法人科学技術振興機構



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ロボット支援腹腔鏡下手術における術中光力学診断の有効性の検討	井上 啓史	泌尿器科学	500,000	補委 公益財団法人内視鏡医学研究財団
口腔癌の局所腫瘍免疫に及ぼす低酸素環境ならびにHIF-1αの影響	山本 哲也	歯科口腔外科学	1,050,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口蓋裂発症における酸化ストレスの関与	山田 朋弘	歯科口腔外科学	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
扁平上皮癌におけるMFG-E8の役割-癌細胞からの産生とEatメシグナル	北村 直也	歯科口腔外科	240,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
細胞競合に立脚した口腔扁平上皮癌の早期診断・予防方法の開発に向けた基礎的研究	山本 哲也	歯科口腔外科学	180,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
EphrinB2を標的とした脈管新生抑制による口腔癌の制御	笹部 衣里	歯科口腔外科	270,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
顎口腔系を介するストレス緩和機序のニューロイメージングによる解析	村田 智子	歯科口腔外科学	390,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腹筋電気刺激によるフィードバック血圧制御装置の開発	山崎 文靖	検査部	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌膜蛋白による血小板凝集と血小板関連疾患発症メカニズムの解明	森本 徳仁	検査部	240,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
呼吸器悪性腫瘍における新規癌ウイルス感染実態の網羅的解析	上岡 樹生	病態情報診断学	330,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌固有の独自進化した細胞分裂システム(細胞死含)とその病原性の解明	竹内 啓晃	検査部	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血小板活性化を伴うピロリ感染症の急性冠症候群への関与	杉浦 哲朗	病態情報診断学	240,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血圧制御型自動ショックパンツの開発	山崎 文靖	検査部	494,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
固定式全方向歩行訓練器の開発とその有用性調査	石田 健司	リハビリテーション部	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷患者の歩容改善のためのリハビリテーション手技構築	細田 里南	リハビリテーション部	210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
平行棒付き回転盤を用いて、平行棒内の回転動作やトイレ動作を容易にする機器の開発	上野 将之	リハビリテーション部	720,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
易転倒方向の個人差分機器開発とその有用性の実証	永野 靖典	リハビリテーション部	420,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の体幹姿勢と歩行の質(歩幅距離や速度など)との関係調査と歩行指導の開発研究	榎 勇人	リハビリテーション部	360,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
運動器疾患の評価と要介護予防のための指標開発および効果的介入方法に関する調査研究	石田 健司	リハビリテーション部	1,000,000	補委 東京大学
医療・介護現場のニーズに対応した移乗動作解除機器の実用化	石田 健司	リハビリテーション部	436,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
虚弱高齢者のための児童生徒参加型高齢者検診と運動器リハモデルに関する研究	永野靖典	リハビリテーション部	400,000	補委 黒潮町
StageIII結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第III相比較臨床試験 ACHIEVE Trial	小林 道也	がん治療センター	1,155,000	補委 公益財団法人がん集学的治療研究財団
StageII/StageIII結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX療法の認容性に関する検討(JFMC41-1001-C2)	小林 道也	がん治療センター	10,500	補委 公益財団法人がん集学的治療研究財団
高知県産ショウガを利用した嚥下機能改善品の開発	宮村 充彦	附属病院薬剤部	570,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計114件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hashiba M	内科 (消化器)	Glycemic variability is an independent predictive factor for development of hepatic fibrosis in nonalcoholic Fatty liver disease.	PLoS One. 2013 ; 8 (11) : 76161-76161.
2	Ono M	内科 (消化器)	Third-generation inhibitor for the renin-angiotensin system: Can it strongly protect against progression of hepatic fibrosis in non-alcoholic steatohepatitis? Editorial.	Hepatol Res. 2013 ; 43 (11) : 1127-1129.
3	Ono M	内科 (消化器)	Bofutsushosan, a Japanese herbal (Kampo) medicine, attenuates progression of nonalcoholic steatohepatitis in	J Gastroenterol. 2013 ; 49 (6) : 1065-1073.
4	Saibara T	内科 (消化器)	Clinical efficacy of combination therapy with ME3738 and pegylated interferon-alpha-2a in patients with hepatitis C virus	Hepatol Res. 2013 Apr.
5	Ue M	内科 (消化器)	Hepatocyte destruction with enhanced collagen synthesis in the liver of chronic hepatitis C patients on hemodialysis.	J Viral Hepat. 2013 ; 20 (5) : 350-357.
6	Ishihara M	内科 (内分泌代謝・腎臓)	Sestrin-2 and BNIP3 regulate autophagy and mitophagy in renal tubular cells in acute kidney	Am J Physiol Renal Physiol. 2013 ; 305 (4) : F495-F509.
7	Taniguchi Y	内科 (内分泌代謝・腎臓)	Clinical implication of FDG-PET/CT in monitoring disease activity in IgG4-related disease.	Rheumatology (Oxford). 2013 ; 52 (8) : 1508-1508.

8	Terada Y	内科 (内分泌代謝・腎臓)	5-Aminolevulinic acid protects against cisplatin-induced nephrotoxicity without compromising the anticancer efficiency of	PLOS one. 2013 ; 8 (12) : 80850.
9	Hamada K	内科 (内分泌代謝・腎臓)	Serum level of soluble (pro)renin receptor is modulated in chronic	Clin Exp Nephrol. 2013 ; 17 (6) : 848-856.
10	Taguchi T	内科 (内分泌代謝・腎臓)	Lupus nephritis with positive myeloperoxidase/proteinase 3-antineutrophil cytoplasmic autoantibody that developed after 17 years of pronylthiouracil	Endocrine. 2014 ; 46 (2) : 357-359.
11	Taniguchi Y	内科 (内分泌代謝・腎臓)	Spondylodiscitis and Achilles tendonitis due to gout.	Mod Rheumatol. 2014.
12	Taguchi T	内科 (内分泌代謝・腎臓)	Concentric -ring sign in adrenal hemorrhage.	Endocrine. 2014.
13	Chi S	内科 (血液・呼吸器)	Recombinant human soluble thrombomodulin is active against hemophagocytic lymphohistiocytosis associated with acquired immunodeficiency	Int J Hematol. 2013 Nov ; 98 (5) : 618-619.
14	Ikezoe T	内科 (血液・呼吸器)	Effect of recombinant human soluble thrombomodulin on clinical outcomes of patients with coagulopathy after hematopoietic stem	Eur J Haematol. 2013 Nov ; 91 (5) : 442-447.
15	Jing Yangl	内科 (血液・呼吸器)	Bcr-Abl activates AURKA and AURKB in chronic myeloid leukemia cells via AKT signaling.	Int J Cancer. 2014 Mar ; 134 (5) : 1183-1194.
16	Chie Nishiokal	内科 (血液・呼吸器)	CD82 regulates STAT5/IL-10 and supports survival of acute myelogenous leukemia cells.	Int J Cancer. 2014 Jan ; 134 (1) : 55-64.
17	Yang J1	内科 (血液・呼吸器)	Over-expression of Mcl-1 impairs the ability of ATRA to induce growth arrest and differentiation in acute promyelocytic	Apoptosis. 2013 Nov ; 18 (11) : 1403-1415.

18	Jing Yangl	内科 (血液・呼吸器)	CD34 <sup>+</sup> /CD38 <sup>-</sup> acute myelogenous leukemia cells aberrantly express Aurora kinase A.	Int J Cancer. 2013 Dec ; 133 (11) : 2706-2719.
19	Jing Yangl	内科 (血液・呼吸器)	IL-1 $\beta$ inhibits self-renewal capacity of dormant CD34 <sup>+</sup> /CD38 <sup>-</sup> acute myelogenous leukemia cells in vitro and	Int J Cancer. 2013 Oct ; 133 (8) : 1967-1981.
20	Chie NishiokaI	内科 (血液・呼吸器)	CD34 <sup>+</sup> /CD38 <sup>-</sup> acute myelogenous leukemia cells aberrantly express CD82 which regulates adhesion and survival of leukemia stem cells.	Int J Cancer. 2013 May ; 132 (9) : 2006-2019.
21	Kubo T	内科 (老年病・循環器・神経)	Significance of high-sensitivity cardiac troponin T in hypertrophic cardiomyopathy.	J Am Coll Cardiol. 2013 Oct ; 62 (14) : 1252-1259.
22	Kitaoka H	内科 (老年病・循環器・神経)	Tissue Doppler imaging and prognosis in asymptomatic or mildly symptomatic patients with	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2013 Jun ; 14 (6) : 544-549.
23	Fujieda M	小児科	Cancer-infection interface in children after transplantation: posttransplant lymphoproliferative disorder and	Curr Opin Organ Transplant... 2013 Aug ; 18 (5) : 549-554.
24	Nakajima K	皮膚科	Barrier abnormality due to ceramide deficiency leads to psoriasiform inflammation in a mouse model.	J Invest Dermatol.. 2013 ; 133 (11) : 2555-2565.
25	Imajoh M	皮膚科	Prevalence and viral DNA loads of three novel human polyomaviruses in skin cancers from Japanese patients.	J Dermatol.. 2013 ; 40 (8) : 657-660.
26	Hirai T	皮膚科	Cathepsin K is involved in development of psoriasis-like skin lesions through TLR-dependent Th17 activation.	J Immunol.. 2013 ; 190 (9) : 4805-4811.
27	Takata T	皮膚科	A failure in endothelin-1 production from vitiligo keratinocytes in response to ultraviolet B	J Dermatol Sci.. 2013 ; 71 (3) : 210-212.

28	Tarutani M	皮膚科	Dystrophic epidermolysis bullosa pruriginosa in a mother and daughter successfully treated by low dose	Eur J Dermatol.. 23 (5) : 727-729.
29	Okino T	皮膚科	Effective therapy with proton irradiation for oral	J Dermatol.. 2013 : 945-946.
30	Kitagawa C	皮膚科	A Typical Case of Paraneoplastic Pemphigus Without Detection of Malignancy: Effectiveness of Plasma Exchange.	Acta Derm Venereol.. 359-361.
31	Yokogawa M	皮膚科	Imiquimod attenuates the growth of UVB-induced SCC in mice through Th1/Th17 cells.	Mol Carcinog.. 2012 ; 760-769.
32	Takaishi M	皮膚科	Psoriasis-like skin lesions are dependent on IL-23 but develop in the absence of IL-22 in	J Dermatol Sci.. 2013 ; 261-264.
33	Okino T	皮膚科	Effective treatment of metastatic renal cell carcinoma with topical imiquimod	J Dtsch Dermatol Ges.. 2013 ; 12 : 155-157.
34	Namikawa T	外科 (一)	Early neuroendocrine carcinoma of the stomach	Clin Gastroenterol Hepatol. 2013 ; 11 (8) : A21-A21.
35	Munekage M	外科 (一)	Population Pharmacokinetic Analysis of Daikenchuto, a Traditional Japanese Medicine (Kampo) in Japanese and US Health Volunteers	Drug Metab Dispos. 2013 ; 41 (6) : 1256-1263.
36	Namikawa T	外科 (一)	Assessment of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography combined with computed tomography in the preoperative management of patients with	Int J Clin Oncol.. 2013.
37	Yatabe T	外科 (一)	Preoperative oral rehydration therapy with 2.5 % carbohydrate beverage alleviates insulin action in	J Artif Organs. 2013 ; 16 (4) : 483-488.
38	Namikawa T	外科 (一)	Preemptive treatment of fungal infection based on plasma $\beta$ -d-glucan levels after gastric surgery for gastric cancer in elderly	J Gastroenterol Hepatol. 2013 ; 28 (9) : 1457-1461.

39	Kitagawa H	外科 (一)	Efficacy of Laparoscopic Gastric Mobilization for Esophagectomy: Comparison with Open Thoraco-abdominal Approach	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2013; 23 (5) : 452-455.
40	Hanazaki K	外科 (一)	Report from the committee for improving the work environment of Japanese surgeons: survey on effects of the fee revision for medical services provided by surgeons	Surg Today. 2013; 43 (11) : 1209-1218.
41	Hanazaki K	外科 (一)	Effect of Daikenchuto (TJ-100) on abdominal bloating in hepatectomized	World J Gastrointest Surg. 2013; 5 (4) : 115-122.
42	Hanazaki K	外科 (一)	Development of perioperative glycemic control using an artificial endocrine pancreas	IEEE Eng Med Biol Soc. 2013; 5719-5722.
43	Fukudome I	外科 (一)	A 58-year-old Woman with Mesh Migration into the Transverse Colon	Am Surg. 2014; 80 (2) : 40-41.
44	Namikawa T	外科 (一)	Metastatic gastric tumor arising from ovarian cancer	Gastrointest Endosc. 2014; 79 (2) : 332-333.
45	Namikawa T	外科 (一)	Photodynamic diagnosis using 5-aminolevulinic acid during gastrectomy for gastric cancer	J Surg Oncol. 2014; 109 (3) : 213-217.
46	Shiga M	外科 (一)	Nodular fasciitis in the mesentery, a differential diagnosis of peritoneal	World J Gastroenterol. 2014; 20 (5) : 1361-1364.
47	Orihashi K	外科 (二)	Malperfusion in acute type a aortic dissection: unsolved problem	Ann Thorac Surg. 2013; 95 : 1570-1576.
48	Okazaki Y	外科 (二)	Less invasive ultrasonography-guided high ligation of great saphenous vein in endovenous laser ablation.	Ann Vasc Dis. 2013; 6 (2) : 221-225.
49	Takashi Anayama	外科 (二)	A novel minimally invasive technique to create a rabbit VX2 lung tumor model for nanosized image contrast and interventional	Pros-one. 8 (6) : e67355.

50	Masaki Yamamoto	外科 (二)	A cardiac calcified amorphous tumor stuck in the aortic valve that mimicking a chameleon's	Surgery Today. 2013 .
51	Nobuo Kondo	外科 (二)	Development of a new selective coronary perfusion cannula	J Artif Organs. 2013 ; 16 : 411-416.
52	Tamura T1	麻醉科	Oral carbohydrate loading with 18% carbohydrate beverage alleviates insulin resistance.	Asia Pac J Clin Nutr. . 2013 ; 48-53.
53	Yatabe T	麻醉科	Perioperative glycemic control using an artificial endocrine pancreas in patients undergoing total pancreatectomy: tight glycemic control may be justified in order	Biomed Mater Eng. 2013 ; 109-116.
54	Kinoshita Y	麻醉科	Evaluation of a novel artificial pancreas: closed loop glycemic control system with continuous blood	Artif Organs. 2013 ; 67-73.
55	Chi H	麻醉科	Activation of ATP-sensitive potassium channels by nicorandil is preserved in aged vascular smooth	J Anesth. . 2013 ; 623-626.
56	Tamura T	麻醉科	Preoperaitive oral rehydration therapy with 2.5% carbohydrate alleviates insulin	J Artif Organs. 2013 ; 483-488.
57	Tamura T	麻醉科	Effect of preoperative carbohydrate loading on the management of blood glucose and	J Anesth. . 2014 ; 148-151.
58	Kawano T	麻醉科	Postoperative pain impairs subsequent performance on a spatial memory task via effects on N-methyl-D-aspartate receptor in aged	Life Sci. . 2013 Dec ; 93 : 986-993.
59	Yamada R	産科婦人科	Is it possible to diagnose malignancy from fluid in cystic ovarian tumors?	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2013 Nov ; 171 (1) : 96-100.
60	Izumi M1	整形外科	MR-guided focused ultrasound for the novel and innovative management of osteoarthritic knee pain.	BMC Musculoskelet Disord. 2013 Sep 13;14:267. doi: 10.1186/1471-2474-14-267..

61	Ikeuchi M	整形外科	Improving tibial component coronal alignment using clearly defined anatomical structures in total knee arthroplasty.	Acta Orthop Belg. 2013 Dec;79 (6) :694-8. .
62	Kiyasu K	整形外科	Differential blood contamination levels and powder-liquid ratios can affect the compressive strength of calcium phosphate cement (CPC): a study using a transpedicular	Eur Spine J. 2013 Jul;22 (7) :1643-9. .
63	Ikeuchi M	整形外科	Diagnostic value of triple-phase bone scintigraphy for the diagnosis of infection around antibiotic-impregnated cement	Springerplus. 2013 Aug 27;2:401. doi: 10.1186/2193-1801-2-401. .
64	Ikeuchi M	整形外科	Clinical characteristics of pain originating from intra-articular structures of the knee joint in patients with medial knee osteoarthritis.	Springerplus. 2013 Nov 23;2:628. doi: 10.1186/2193-1801-2-628. .
65	Tadokoro Na	整形外科	Descending spinal cord evoked potentials in cervical spondylotic myelopathy: Characteristic waveform changes	Clin Neurophysiol. 2014 Jan; 125 (1) :202-7. .
66	Aso KI	整形外科	Nociceptive phenotype of dorsal root ganglia neurons innervating the subchondral bone in	Eur J Pain. 2014 Feb;18 (2) :174-81. .
67	Kida KI	整形外科	Can cantilever transforaminal lumbar interbody fusion (C-TLIF) maintain segmental lordosis for degenerative spondylolisthesis on	Arch Orthop Trauma Surg. 2014 Mar;134 (3) :311-5. .
68	Ishida W	眼科	Oral administration of Ag suppresses Ag-induced allergic conjunctivitis in mice: critical timing and dose of	Br J Ophthalmol. 2013 ; 97 (4) : 492-497.



69	Taguchi O	眼科	Behavior of bone marrow-derived cells following in vivo transplantation: differentiation into stromal cells with roles in organ maintenance.	Am J Pathol. 2013 ; 182 (4) : 1255-1262.
70	Yamamoto Y	眼科	Case of cytomegalovirus retinitis aggravated by sub-Tenon injection of triamcinolone acetonide with subsequent	Clin Ophthalmol. 2013 ; 7 : 411-413.
71	Fukuda K	眼科	Alarmins from corneal epithelial cells up-regulate CCL11 and VCAM-1 in corneal fibroblasts.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 ; 54 (8) : 5817-5823.
72	Sumi T	眼科	Development of automated conjunctival hyperemia analysis	Cornea. 2013 ; 32 : S52-S59.
73	Harada Y	眼科	Identification of keratocyte-like cells differentiated from circulating bone marrow-derived cells in the mouse	Med Mol Morphol. 2013 ; 46 (4) : 233-238.
74	Yoneda T	眼科	A case of functional (psychogenic) monocular hemianopia analyzed by measurement of hemifield visual evoked potentials.	Case Rep Ophthalmol. 2013 ; 4 (3) : 283-286.
75	Taisuke Kobayashi	耳鼻咽喉科	Primary endobronchial Burkitt's lymphoma in a child: A case	International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology. 2013 ; 77 (5) : 875-878.
76	Masahiro Komori	耳鼻咽喉科	Width of the normal facial canal measured by high-resolution cone-beam computed tomography.	Acta Oto-Laryngologica. 2013 ; 133 (11) : 1227-1232.
77	Kaori Nishikubo	耳鼻咽喉科	A rare manifestation of cricopharyngeal myopathy presenting with dysphagia in sarcoidosis	Reumatology International. 2013 ; 33 (4) : 1089-1092.
78	Karashima T	泌尿器科	Expression of angiogenesis-related gene profiles and development of resistance to tyrosine-kinase inhibitor in advanced renal cell carcinoma: characterization of sorafenib-resistant cells derived from a	Int J Urol. 2013 ; 20 (9) : 923-930.

79	Inoue K	泌尿器科	Photodynamic therapy involves an antiangiogenic mechanism and is enhanced by ferrochelatae inhibitor in urothelial	Cancer Sci. 2013; 104 (6) : 765-772.
80	Fukuhara H	泌尿器科	The inhibition of ferrochelatae enhances 5-aminolevulinic acid-based photodynamic action for prostate cancer.	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2013; 10 (4) : 399-409.
81	Inoue K,	泌尿器科	Porphyrins as urinary biomarkers for bladder cancer after 5-aminolevulinic acid (ALA) administration: the potential of	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2013; 10 (4) : 484-489.
82	Inoue K	泌尿器科	Application of 5-aminolevulinic acid-mediated photodynamic diagnosis to robot-assisted	Urology. 2013 Nov; 82 (5) : 1175-1178.
83	Wei S	泌尿器科	Terrestrosin D, a steroidal saponin from Tribulus terrestris L., inhibits growth and angiogenesis of human prostate	Pathobiology. 2014; 81 (3) : 123-132.
84	Maeda H	がん治療センター	Differences in UGT1A1, UGT1A7, and UGT1A9 Polymorphisms between Uzbek and Japanese	Mol Diagn Ther. 2014; 18 (3) : 333-342.
85	Tokuhiro S	検査部	Phosphagen kinase in Schistosoma japonicum: characterization of its enzymatic properties and determination of its	Molecular and Biochemical Parasitology. 2013; 188 (2) : 91-98.
86	Hashida Y	検査部	Absence of Merkel cell polyomavirus in monocytic leukemias.	Acta Haematol. 2013; 130 (3) : 135-137.
87	Uchiyama J.	検査部	Characterization of Helicobacter pylori bacteriophage KHP30	Applied and Environmental Microbiology. 2013; 79 (10) : 3176-3184.
88	Norihito Morimoto	検査部	PCR amplification and DNA sequence analysis of parasitic intestinal protozoa in specimens stained	Acta parasitologica June 2013. 58 (2) : 132-138.

89	Uchiyama I	検査部	Evaluating efficacy of bacteriophage therapy against Staphylococcus aureus infections using a silkworm	FEMS Microbiology Letters. 2013 ; 347 (1) : 52-60.
90	Hashida Y	検査部	Phylogenetic analysis of Merkel cell polyomavirus based on full-length LT and VP1 gene sequences derived from neoplastic tumours in Japanese	J Gen Virol.. 2014 ; 95 : 135-141.
91	Yamada T	歯科口腔外科、病理診断部	Mucinous Cystadenoma in the Uppere Lip: Report of Two Cases	Int J Surg Pathol. 2013 ; 22 (4) : 364-368.
92	Yokota J	薬剤部	The influence of Goishi tea on adipocytokines in obese mice	Food Chemistry. 2013 ; 138 (4) : 2210-2218.
93	Kumagai N1	次世代医療創造センター	Effects of smoking on outcomes after acute atherothrombotic stroke in Japanese	J Neurol Sci. 2013 Dec ; 335 : 164-168.
94	Kubo T1	次世代医療創造センター	Significance of high-sensitivity cardiac troponin T in hypertrophic cardiomyopathy.	J Am Coll Cardiol. 2013 Oct ; 62 (14) : 1252-1259.
95	Hamada K	次世代医療創造センター	Serum level of soluble (pro)renin receptor is modulated in chronic	Clin Exp Nephrol. 2013 Dec ; 17 (6) : 848-856.
96	Ichikawa K	次世代医療創造センター	Oral supplementation of branched-chain amino acids reduces early recurrence after hepatic resection in patients with hepatocellular carcinoma: a	Surg Today. 2013 Jul ; 43 (7) : 720-726.
97	Kumagai N1	次世代医療創造センター	Heavy alcohol intake is a risk factor for esophageal squamous cell carcinoma among middle-aged men: A case-control and simulation study.	Mol Clin Oncol. 2013 Sep ; 1 (5) : 811-816.
98	Chi H1	次世代医療創造センター	Postoperative pain impairs subsequent performance on a spatial memory task via effects on N-methyl-D-aspartate receptor in aged	Life Sci. 2013 Dec ; 93 : 986-993.
99	Kumagai N1	次世代医療創造センター	Effects of smoking on outcomes after acute atherothrombotic stroke in Japanese	J Neurol Sci. 2013 Dec ; 335 : 164-168.

100	Kawanishi Y1	次世代医療創造センター	Evaluation of two- and three-dimensional visualization for endoscopic endonasal surgery using a novel stereoendoscopic system in a novice:	Acta Neurochir. 2013 Sep ; 155 (9) : 1621-1627.
101	Kumagai N1	次世代医療創造センター	Prognostic significance of smoking in patients with acute ischemic stroke within 3 months of onset.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2013 Aug ; 22 (6) : 792-798.
論文件数合計				101件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存・公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネージメントの対象、マネージメント委員会の設置、調査、資料の保存、学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年8回
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データマネージメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

## 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

### 1 研修の内容

・ NASHに関するベザフィブレート治療・拡大大腸内視鏡の早期大腸癌診断・原発性胆汁肝硬変に対するベザフィブレート治療・原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法・virtual sonographyを用いた肝癌の局所治療・難治性関節リウマチに対する生物製剤治療・難治性関節リウマチに対する白血球除去療法・甲状腺穿刺細胞診・内分泌負荷試験の実施・経皮的腎生検・持続皮下インスリン注入療法 (CSII)の導入・持続血糖測定装置 (CGMS)の実施・間質性肺炎に対するpirfenidone療法・超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査・超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査・ナビゲーションシステムを用いた気管支鏡検査・同種骨髄移植・自家末梢血幹細胞移植・骨髄採取術・DICの診断・治療・冠動脈インターベンション・心臓超音波検査・カテーテルアブレーション・小児腎生検・小児腹膜透析・亜急性硬化性全脳炎に対するIfN, TRH療法・小児心臓カテーテル検査・治療抵抗性うつ病に対する修正型パルス波電気けいれん療法・治療抵抗性統合失調症に対する修正型パルス波電気けいれん療法・乾癬に対する生物学的製剤による治療・爪白癬に対するレーザー療法・エキシマランプによる円形脱毛症の治療・多発性円形脱毛症に対するミニパルス療法・病理勉強会・英文研究論文抄読会・紫外線発癌におけるタクロリムス軟膏の影響・乾癬とメタボリックシンドロームの関与・質量分析イメージングを用いた皮膚生体内分子の局所解析・健康成人およびアトピー性皮膚炎に対する医療用保湿剤の有効性の検討・膠原病皮膚病変に対するヒドロキシクロロキンの臨床評価・乾癬のバリア障害の評価・中性脂肪蓄積心血管症の診断法の確立・非侵襲的冷却脂肪溶解術の臨床効果の検討・ベセルナクリーム外用治療の自己免疫疾患に与える影響の検討・第4回放射線治療セミナー in Kouchi・胃癌に対する腹腔鏡下手術・食道癌に対する胸腔鏡下手術・大腸癌に対する腹腔鏡下手術・原発性肝癌に対する広範囲肝切除・膵癌に対する膵頭十二指腸切除・乳癌に対するセンチネルリンパ節生検・血管の露出、遮断、切開、吻合手技・心タンポナーデの手術適応判断と心嚢ドレナージ手術・末梢動脈疾患に対する血管内治療・急性動脈閉塞症の鑑別診断と緊急血栓摘除術・ペースメーカー植込み手術・超音波気管支鏡下縦隔リンパ節生検・抗がん剤感受性試験を用いたオーダーメイドがん化学療法・3DCT画像を応用した対表イメージングによる低侵襲手術・完全内視鏡下胸部外科手術・重症患者に対する集中治療・慢性痛に対する集約的治療・術後回復強化プログラムの実施・持続血液浄化の実施・血液浄化法の応用による抗体除去・ハイリスク患者の麻酔管理・婦人科骨盤腔内視鏡下手術・閉経女性における虚血性心疾患の発症予防を目的としたホルモン補充療法・体外受精・子宮内膜症の免疫学的診断・高齢者の頸部脊髄症に対して電気診断に基づいて行うピンポイント手術・ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリュー固定・頸椎後縦靭帯骨化症に対する顕微鏡視下前方除圧固定術・腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術・骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術・腎筋を侵襲しない前方アプローチ人工股関節手術・股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲棚形成術・転移性骨腫瘍に対するMRガイド下収束超音波治療・末梢神経電気刺激法による術中DVT予防法・手根管症候群の内視鏡手術・涙道内視鏡手術・加齢黄斑変性に対する光線力学的療法・眼内内視鏡を用いた硝子体手術・鼓室形成術・内視鏡下鼻内副鼻腔手術・音声機能検査および音声外科手術・嚥下機能検査（嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査など）・頭頸部癌手術（喉頭摘出術、頸部郭清術など）・嗅覚機能検査・遺伝性腎癌の遺伝子診断・前立腺癌の密封小線源永久挿入療法・前立腺癌の高線量率組織内照射療法・前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術・膀胱癌の光力学的診断・頭頸部癌に対するリザーバー留置超選択的動注療法・インプラント・進行大腸癌に対するD3リンパ節郭清を伴う腹腔鏡下補助下手術・胃癌に対する腹腔鏡補助下手術・腹腔鏡下胃切除術における体内吻合術・単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術

### 2 研修の実績

研修医の人数	427人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小野 正文	第一内科	講師	23 年	
岩崎 信二	第一内科	准教授	27 年	
廣瀬 享	第一内科	助教	14 年	
水田 洋	第一内科	助教	15 年	
寺田 典生	第二内科	教授	29 年	
西山 充	第二内科	准教授	20 年	
藤本 新平	第二内科	教授	22 年	
大西 広志	第三内科	助教	16 年	
窪田 哲也	第三内科	准教授	22 年	
砥谷 和人	第三内科	講師	21 年	
池添 隆之	第三内科	講師	20 年	
谷岡 克敏	老年病科	助教	16 年	
馬場 裕一	老年病科	助教	12 年	
弘田 隆省	老年病科	助教	14 年	
藤枝 幹也	小児科	教授	29 年	
山本 雅樹	小児科	助教	15 年	
森信 繁	精神科	教授	31 年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	30 年	
小川 恭弘	放射線科	教授	37 年	
花崎 和弘	外科一	教授	29 年	
杉本 健樹	外科一	准教授	28 年	
並川 努	外科一	講師	22 年	
北川 博之	外科一	助教	10 年	
岡本 健	外科一	講師	21 年	
西森 秀明	外科二	准教授	26 年	
山本 正樹	外科二	助教	13 年	
穴山 貴嗣	外科二	助教	17 年	
横山 正尚	麻酔科	教授	32 年	
泉谷 知明	産科婦人科	講師	20 年	
池上 信夫	産科婦人科	講師	21 年	
前田 長正	産科婦人科	准教授	28 年	
池内 昌彦	整形外科	准教授	18 年	
福島 敦樹	眼科	教授	23 年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	30 年	
小林 泰輔	耳鼻咽喉科	准教授	26 年	
執印 太郎	泌尿器科	教授	37 年	
井上 啓史	泌尿器科	准教授	24 年	
山崎 一郎	泌尿器科	講師	21 年	
山本 哲也	歯科口腔外科	教授	28 年	
小林 道也	がん治療センター	教授	29 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 横山 彰仁
管理担当者氏名	総務企画課長 都築 泰仁 医療安全管理部長 瀬尾 宏美 医事課長 山田 正三 薬剤部長 宮村 充彦 放射線部長 西岡 明人

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課（カルテ室）及び薬剤部並びに放射線部	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式とし、エックス線写真は一患者一ファイル方式で共にコンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課
	高度の医療の研修の実績	総務企画課
	閲覧実績	総務企画課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び薬剤部	
第一規一則号第一に掲げる十の第一項各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制	医事課



		の確保状況		
--	--	-------	--	--

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 西村 仁秀	
閲覧担当者氏名	総務企画課長 都築 泰仁	
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室	
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。 諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようにしている。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	④・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：(本院の安全管理のための指針)<ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全管理に関する基本的考え方(安全管理の体制確保という総合的観点から)</li><li>・ 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項</li><li>・ 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>・ 医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針</li><li>・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>・ 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>・ 患者さんからの相談への対応に関する基本方針</li><li>・ 医薬品と医療機器安全管理に関する基本方針</li><li>・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ul></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：(リスクマネジメント代表者会議規則)<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則(平成16年5月26日施行)第3条に定める事項</li><li>(2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関する事</li><li>(3) 判定した影響度レベルが3b以上のものについて、医療問題調査委員会への報告に関する事</li><li>(4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関する事</li><li>(5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関する事</li><li>(6) 研修会等の企画・立案に関する事</li><li>(7) 協議事項の結果をリスクマネジメント担当者会議に周知徹底する事</li><li>(8) その他安全管理に関する事</li></ol></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年22回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：(全職員を対象に下記のテーマで計22回開催した)<ul style="list-style-type: none"><li>「南海トラフ巨大地震の被害想定について」</li><li>「今を生き、明日へとつなぐ～東日本大震災の経験～」</li><li>「患者と医療者に必要なパートナーシップとは」</li><li>「ドロッカーに習う医療安全と地域密着型病院災害訓練」</li><li>「安全・安心な医療」(同内容 4回)</li><li>「職場のメンタルヘルスについて」(同内容 2回)</li><li>「医療ガスの事故例、医療ガスの正しい取り扱い方」</li><li>「南海トラフ巨大地震における広域搬送：東日本大震災における経験を踏まえて」</li><li>「チームで取り組む医療安全」</li><li>「輸血療法の基礎」</li><li>「転ばぬ先の知恵」(同内容 2回)</li><li>「日本の医療経済と病院経営」</li><li>「患者さんご家族からの暴言・暴力対応」</li><li>「投薬事故防止のために」(同内容 2回)</li><li>「緊急時心肺蘇生時の気道確保法」</li><li>「キャンパスの自殺予防対策」</li></ul></li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (④・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li></ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告事例の分析を行い、事例に対応する事故防止のための研修会の開催、マニュアルの改定</li> <li>・医療機器の不具合情報を厚生労働省に報告するとともに院内にもリスクマネジメントニュースにより周知</li> <li>・病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。</li> <li>・報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。</li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (3名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④ ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 (5) 名 兼任 (10) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： (医療安全管理部)</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。</li> <li>(2) 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。</li> <li>(3) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。</li> <li>(4) 医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。</li> <li>(5) 改善策を立案すること。</li> <li>(6) 改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。</li> <li>(7) 安全管理に関する教育・研修に関すること。</li> <li>(8) 安全管理に関する連絡調整に関すること。</li> <li>(9) その他安全管理に関すること。</li> </ol>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ ・無

(様式第 6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>院内感染対策に関する基本的考え方</li><li>院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項</li><li>院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li><li>感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>審議事項<ol style="list-style-type: none"><li>感染の発生及びその感染経路の調査に関すること</li><li>感染予防に係る情報の収集に関すること</li><li>感染予防の実施、監視及び指導に関すること</li><li>感染症発生時の措置に関すること</li><li>院内職員の教育及び啓発に関すること</li><li>消毒剤等の使用に関すること</li><li>その他感染予防に関すること</li></ol></li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：全職員を対象に下記のテーマで合計20回開催した<ul style="list-style-type: none"><li>あなたの周りにもあるかも!?よくある間違い</li><li>環境整備の落とし穴</li><li>感染症迅速検査の有効活用～グラム染色・迅速診断キット</li><li>消毒薬を正しく使うための基礎知識</li><li>2013年前期当院の検出菌状況</li><li>最近増えているESBL</li><li>肝炎について</li><li>抗菌薬の考え方・使い方【気道感染症編】</li><li>標準予防策</li><li>抗菌薬の考え方・使い方【尿路感染症編】</li><li>歯周病と糖尿病の深い関連</li><li>多剤耐性黄色ブドウ球菌</li><li>抗菌薬の考え方・使い方【消化器感染症編】</li><li>感染症アウトブレイク調査のABCと感染管理の最近のトピック</li><li>ここが変だよ抗菌薬処方～事例を元に～ 外来編</li><li>ここが変だよ抗菌薬処方～事例を元に～ 院内編</li><li>肝臓外科における周術期栄養管理-栄養療法による敗血症予防-</li><li>癌悪液質と栄養</li><li>2013年後期当院の検出菌状況</li><li>アウトブレイクとは</li></ul></li><li>その他、研修医、新採用看護師に対しても実施した</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>感染情報レポートは、週報(毎週1回)、月報(毎月1回)、年報(毎年1回)作成し、感染症法に基づく病原体(MRSA、ペニシリン耐性肺炎球菌、感染性胃腸炎の病原菌、薬剤耐性緑膿菌、</li></ol></li></ul>	

多剤耐性アシネトバクターなど)、 $\beta$ -ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性ヘモフィルス、3世代セフェム耐性基質拡散型 $\beta$ -ラクターゼ産生菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、流行時期に応じてインフルエンザ、ノロウイルスなどの検出状況を示している。

2. MRSAについては、サーベイランスを行い、感染と保菌、院内発生と持込を診療科別、病棟別に示している。
3. これらの情報は、ベースラインを把握し、菌検出状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
4. ICTに報告が必要な病原体として、血液培養陽性、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性アシネトバクター、バンコマイシン耐性腸球菌、基質拡散型 $\beta$ -ラクターゼ産生菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・带状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
5. 診療科、病棟、外来、検査部からICTに報告があれば、
  - ① ICTは直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する
  - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
  - ③ 接触者(患者、面会者、医療従事者)を確認し、必要な予防策を講じる
  - ④ 医師、看護師、ICT合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
  - ⑤ 随時感染制御部長から病院長(感染対策委員長)に報告する
  - ⑥ 診療科、病棟から所属長に報告する
  - ⑦ 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
6. 週1回、感染対策ラウンド
7. 週1回、感染症カンファレンス
8. 感染対策ニュースの発行
9. 全部署の速乾性手指消毒薬使用量のモニタリング

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
研修の主な内容：(H25年度)	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 麻薬・向精神薬の使い方(対象：研修医)</li><li>2. 静脈注射に関する注意点について(対象：2年目以降の看護師)</li><li>3. 抗菌薬の適正使用・消毒薬の適正使用(感染対策研修会)</li><li>4. 安全・安心の医療(医療安全研修会、対象：全職員)</li></ol>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無)	
・ 業務の主な内容：	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医薬品の採用・購入に関する事項</li><li>2. 医薬品の管理に関する事項</li><li>3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項</li><li>4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li><li>5. 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項</li><li>6. 他施設(医療機関・薬局等)との連携に関する事項</li><li>7. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に係る事項</li></ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
<ol style="list-style-type: none"><li>① IMIS掲示板及び全学グループウェアの掲示板</li><li>② 院内通知文書</li><li>③ 医薬品・医療機器等安全性情報の発行</li><li>④ 病棟薬剤業務連絡会</li><li>⑤ DIニュースの発行</li><li>⑥ 各種勉強会、講習会等</li></ol>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4回
・ 研修の主な内容： 全職員・新人看護師・研修医等に対する、安全使用に関して技術の習得が必要と考えられる機器等の、適正な使用方法とインシデント対策等に関する定期研修、及び新しい医療機器の導入時の操作方法等に関する研修を実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( ①・無 ) ・ 保守点検の主な内容： 特に安全使用に関して技術の習得が必要と考えられる機器を含む、人工呼吸器、人工心肺装置、輸液ポンプなどの機器類の定期点検、日常点検等を実施し、コンピュータ化されて機器名、型式等が入力されている機器台帳により個々に記録管理し、かつ保守点検計画を策定。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ①・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 使用部署に取扱い説明書等を整備。医療機器製造販売業者等から収集した安全情報は、病院の電子掲示板により周知を図るが、緊急を要する場合は、直接関係部署に出向き、説明し情報を伝え対応をとる。また、院内医療機器のインシデントの報告に対し、その安全対策・改善策を周知し実施する。さらに、医療機器の不具合は病院管理者への報告を通して、医療機器安全性情報報告書を原則として厚生労働省に提出する。	



(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成21年12月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 *がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」や「緩和ケアチーム」「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。 *光学医療診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。	

(様式第 8)

高大医医 第 90 号  
平成 26 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人高知大学  
医学部附属病院長 横山 彰

高知大学医学部附属病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

- ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜
- ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
① 循環器内科 ② 神経内科	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
① 消化器外科 ② 心臓血管外科 ③ 形成外科	4	5	6	7		
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)					
歯科と組み合わせた診療科名						
① 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制	本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制の元に歯科診療を行っている。 現在常勤歯科医師5名、非常勤歯科医師11名が従事しており、平成25年度は1日あたり外来患者87.1人、入院患者10.7人の歯科診療を行っている。					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

① 病理診断科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

### 3 不足している診療科の整備のための予定措置

院内で救急患者の受入れに関するワーキンググループを組織して検討を行った結果、救急診療専従の医師について増員を図り、平成27年度中に救急科を標榜する予定としている。